# 『約束はすべての人々に』(使徒の働き 2 章 14-24,32-39 節) 2021.5.23.

**<はじめに>**今がどんな時か、これからどうなるかを知ることは至難です。「新しい段階(フェーズ)に入った」と言われる転機があります。使徒の働き 2 章に描かれているペンテコステの出来事は世界と歴史の片隅の出来事ですが、大きな変向点です。

## Ⅰ 五旬節の日に

### ①50 日目の祭日(申命記 16:9-12)

大麦の刈り入れ開始から7週間で大麦の収穫が終わり、小麦の収穫へと移る「初穂の日」(民数 28:26)です。かつてエジプトでの奴隷から解放されたことを覚えつつ、収穫を神に感謝し、家族だけでなくレビ人、奴隷、寄留者、孤児、やもめとともに喜び楽しむ時です。

### ②五旬節の出来事(2:1-4)

イエス昇天後、弟子たちはエルサレムに留まり、イエスから聞いた父の約束である聖霊を待ち望んでいました。五旬節の朝、天から突然激しい風の如き響き、炎のような舌が現れて彼らの上にとどまり、聖霊に満たされ、他国の言葉でおのおの話し始めました。

### ③出来事への反応(2:5-15)

エルサレムには、地中海沿岸諸国からユダヤ教徒が住まっていました。物音を聞いて彼らも集まり、自国の言葉で神の大きなみわざを語る弟子たちに驚き当惑します。「新しいぶどう酒に酔った」と嘲りの声に、ペテロと 11 弟子が立って群衆に語り掛けました。

## Ⅱ 約束の実現

### ①預言の成就(16-21)

ペテロはヨエルの預言を引用し、神は「すべての人にわたしの霊を注ぐ。すると彼らは預言する」と語られたことが、今ここに成就したと語ります。やがて来る「主の大いなる輝かしい日」を前に、主の名を呼ぶ者はみな救われる「終わりの日」の始まりだと語ります。

### ②イエスの十字架(22-23)

ナザレ人イエスの力あるわざ・不思議なしるしは、聴衆も周知していました。しかしユダヤ教徒はローマの権力を使ってイエスを十字架につけて殺したのです。しかしこれらは、「神が定めた計画と神の予知によって」予め預言されていたことの成就でした。

### ③イエスの復活と(24, 32-33)

「しかし神は、イエスを死の苦しみから解き放って、よみがえらせました」。人の行為を神が覆されたのです。その神の御計画と御意を人に教えさとし(ヨハネ 14:26)、真理に導き入れる(16:13)ために、預言で約束された聖霊が注がれました。弟子たちはその初穂です。

## Ⅲ 約束はなお続く

### ①一つが終わり、一つが始まる(36)

人々は神の御子イエスを十字架で殺し、人の罪は最高潮に達しました。しかし神はイエスをよみがえらせ、人をその罪から救うキリストとされました。罪が死を収穫した後に、永遠のいのちの収穫が始まったのです(ロマ 6:23)。人の罪さえ、神は救いの引き金とされます。

### ②神の先備え(37-38)

ペテロは自分の罪に気付いた人々に、悔い改めとイエス・キリストの名によるバプテスマ(洗い)を勧めます。人が悔い改める前に、神は救い主を先備えされました。どうしてなのでしょう。そうする者に聖霊が注がれ、神の御計画と御意へと導かれます。

### ③主が召される人への約束(39)

「召す」は権威者の召喚です。応じる者には栄誉、拒む者には死です。世の権力者と神は異なりますが、召しへの応答で明暗は明白です。主は、あらゆる国民に救いへと招かれます。ユダヤ人の罪の刈り取りが、全人類への救いの刈り入れの幕開けとなりました。

**<おわりに>** 主からの救いの招きは、すべての人をご自身へと招かれる収穫の時の始まりを告げるとともに、終わりの日が近いことも覚えなければなりません。収穫の時は限られています。「しかし、主の御名を呼び求める者はみな救われる」(21)の声に応じるのは、今です。(H.M.)